

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190502773		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・中の島 (すずらん館)		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	令和 4年 2月28 日	評価結果市町村受理日	令和 4年 4月 27 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190502773-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190502773-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄までは徒歩5分程度でバス停も近く、駐車場もあるので家族や友人が来訪しやすい環境にある。周囲にはスーパーや神社・公園があり、コロナ禍の前は時々散歩に出かけたり神社のお祭り見物や花見に出かける等、近隣の住民と触れ合う機会があった。コロナの感染者数の状態によりご家族の面会はガラス越しや玄関、居室で短時間等、都度対応を考慮している。面会できない時には電話で話してもらうこともある。今現在は外出行事はできていないが、毎月1回以上は様々な出前を取ったり、職員が特別メニューを考え入居者の目の前で調理をしたり(お好み焼き、おでん等)、生活に彩を添えられるよう工夫している。家族には月1回担当者が写真入りの手紙を作成し、最近の様子を伝えている。また身体拘束適正化委員会や毎月テーマごとに行なっている研修で、学び、話し合い、自己チェック表で普段の言葉づかいや対応、自分のストレス度等を振り返り問題点を抽出し話し合い、常により良いケアを目指して励んでいる。また、毎月ユニット会議を行い、入居者の状態の変化やケアの問題点等を話し合う機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、住宅街に位置し、地下鉄中の島駅から約400m、中の島通りからも近くて交通の便が良く、広い駐車場もあって家族等が訪問しやすい環境にある。近くには保育園、公園、コンビニなどがあり生活環境にも恵まれている。鉄筋コンクリート3階建ての2階・3階はグループホームで、1階は法人の北海道事業部となっている。居間・食堂は一体的で、ベランダに面した大きな窓から陽が入り明るく、職員は交代で飾り付けを担い、利用者と一緒に作った塗り絵や書初め、担当職員が工作した季節のものが飾られ季節感を感じることが出来る。利用者はベランダで日光浴・外気浴をしたり、プランターの花への水やりを行ったりもしている。毎日テレビ体操やラジオ体操をしたり、座ったままで使用できる運動機械があり、座ったままゲームで遊んだり、ボールを用いたレクリエーションをするなど、足の運動ができるよう心がけている。コロナ禍前は近くの保育園児と毎月交流会を行ったり、散歩しながら各家庭の木や花を見ながら挨拶を交わし交流に努めていた。外出が思うようにならないコロナ禍中は出前の利用、有名店のパン・ケーキ等を用意して食事会を楽しんでいる。職員も外部研修に参加できない日々ではあるが内部の学習会で補うことでより良い支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グッドケア・中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」と掲げ、スタッフルームの目につくところに掲示し、折に触れ確認するようにしている。	事業所理念を玄関等に掲示すると共に、職員で共有しケアに繋げている。地域密着型事業所らしいわかりやすい理念であり、利用者、家族、誰にでも理解しやすい内容である。又、身体拘束廃止についてのテーマを設定し目標として掲げ3ヶ月毎に検討し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍なので現在はできていないが、以前は町内のゴミ拾いや花植え、公園の草取りや清掃等に入居者と共に参加し、ホームの避難訓練に町内の方にも参加してもらったことで、顔なじみになり地域の一員として関係性を作っている。	自治会に加入し地域との関わりを心がけている。コロナ禍前は保育園児との交流や、地域の清掃・花植えを行ったり、事業所の駐車場で町内交流会としてバーベキューを実施した。現在地域との関わりがない状況が3年目となりコロナ禍後を見据え関わり回復を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、町内行事等で入居者と触れ合う機会を作り、認知症の方について知ってもらい日常どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2か月の活動報告や外部評価の結果、ホーム内の状況や出来事を報告し意見を聞いている。その内容は議事録にまとめ、参加していないご家族にも送付し、情報共有している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。現在は管理者・職員で書面会議で行って、活動報告、事故報告、行事などについて報告している。通常であれば町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族の出席を得ている。時には利用者の参加もある。議事録は毎回家族等関係者に送付し、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍なので現在は参加をお願いできないが、運営推進会議では地域包括支援センターの職員に参加してもらい、ホームのケアや取り組みを伝えていた。生活保護の方については保護課の担当者に報告や相談もしている。	区の職員とは、報告・連絡、書類の提出を行い、必要に応じて電話やメールで相談をしている。災害対策として消防署・区の災害対策部署に情報を求め意見を聞くなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束を行うことがないよう日々のケアやグレーゾンの見直しを行っている。併せて年に2回、身体拘束適正化研修も行い職員全員で身体拘束防止に取り組んでいる。	3ヶ月に1回、身体拘束等適正化委員会を開催し、職員で情報を共有しながら身体拘束をしないケアに努めている。又、身体拘束廃止委員会を毎月開催し、3ヶ月毎に設定する目標の達成度の確認を行っている。身体拘束の適正化は、創生事業団全体で力をいれており、毎月のグループホーム全体管理者会議で情報の共有化に努めている。転倒事故は夜間時のトイレに関わるベッドからの立ち上がり時の転倒がほとんどのため、センサーマットや赤外線センサーを用いた見守りを行っている。	

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎年何名かずつ順番に北海道高齢者虐待防止推進研修会を受講し、新たに学んでいる。そして受講した職員が他の職員に伝達研修を行い、全員に周知できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要時には家族や保護課担当者等と相談し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要な部分は特に時間をかけて読み上げ説明し、随時わからないことは質問してもらっている。又、改定がある場合は文書と口頭で説明し理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望はその都度聞き、ケアプランに取り入れている。契約時に苦情申し立て機関の周知も行い、職員に言いづらい場合はそちらに連絡できるよう案内している。	普段利用者から言葉で希望を聞くことは容易ではない場合もあるが、職員担当制を用いており、日々の会話や表情から利用者の意見・要望の把握に努め、家族とは、毎月写真付きの家族あての手紙を送付し、面会時や電話連絡時に意見や要望を聞いている。家族からは運動能力を維持させたい希望があるので、それを受け止め毎日の体操を心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や運営推進会議・職員間の連絡帳等から職員の意見を集約し、管理者は月に1回の管理者会議で会社側に伝えている。	管理者は日々の業務や連絡帳、業務日誌を活用し、月1回行われるユニット会議で職員の意見、提案を聞いている。 また、法人は管理者会議を月1回開催し、様々な意見を法人に伝える機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の勤務姿勢や実績が反映される。また、自己評価を行い更に管理者からの評価と比べることによって、本人の状態を把握できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し、休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。特に北海道高齢者虐待防止推進研修会や、社会福祉施設等防火・救命実務研修会は毎年受講するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍なので現在はできていないが、以前は札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、豊平区在宅ケア連絡会・豊平区ケアマネジャー研修会等に参加することにより、同業者との情報交換や協力体制を作っていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し不安等をお聞きしている。入居後は交流を図りながら心情を察するよう心がけ、安心が得られるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約時等にご家族の要望をお聞きしている。来訪時や手紙などで日常の様子をお伝えするとともに、ケアプランの更新時に合わせ家族の要望をお伺いし、対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を考慮しながら必要としている支援、その他のサービスを含めて検討し、その時に適した支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者各々の状態に合わせ、掃除や食器拭き、洗濯物畳みなどできる範囲で役割を分担し、協力し合える関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で変化などがあればご家族に報告・相談し、意見や要望を汲み取りながら共に本人を支え合える関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人などが気軽に電話や来訪ができるような環境づくりに努めているが、現在は新型コロナウイルスの影響もあり、来訪が制限されることがある。	家族との面会はコロナ禍の推移をみながら、中止したり短時間で実施、あるいはガラス越しに顔を合わせる等工夫しつつ支援している。2ヶ月毎に訪問理美容を全員が利用している。携帯電話を所持している利用者もおり保管や操作については職員がサポートして馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一度の行事で交流を深めている。また、日常生活に体操や脳トレを取り入れたり、時には職員が会話の仲立ちをしながら、入居者同士が関わり合えるような環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や要望があれば考慮し、必要に応じて対応できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や家族からの情報から思いや意向が把握できるよう努め、言葉で表現できない場合は表情や動作等から把握できるよう努め、職員間で情報を共有し支援している。	コミュニケーションが困難な事も少なくないが、日々の会話や表情、動作などから思いを汲み取り、連絡帳や業務日誌を用いて全職員で共有している。困難な場合は家族からの情報を得たりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、必要に応じて家族や本人からも話を聞き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にその日の様子や状況を詳しく記載し現状の把握に努めている。脳トレや運動などを行い、力量の変化に気を配っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れ、職員全員が意見を出しカンファレンスを行い介護計画を作成し家族に説明して確認している。状態に変化がある場合はその都度介護計画の見直しを行っている。	利用者、家族の意向を反映させ、全職員からの意見、必要に応じて主治医や看護師とも相談して、短期3ヶ月～6ヶ月、長期は6ヶ月～1年毎に現状に即した介護計画を作成し家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に様子や情報を記入し特記事項は業務日報に記載している。その日の就業前に確認し情報の共有し介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、必要に応じて入居者の買い物や職員が代行している。基本的に救急搬送の対応は家族に同行してもらすが、状況により職員が同行することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ならば中学校の職場体験の受け入れや近所の保育園の園児の来訪、町内会の清掃や花壇の花植えに参加し交流をしていたが、コロナの影響で中止になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を大切にしている。訪問診療を受けているが、必要に応じて家族同行で他の医療機関を受診している。個別の医療記録を作り職員全員で情報の共有をしている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診は基本的には家族が対応し、必要に応じ職員が対応している。提携医の訪問診療を月2回、毎週看護師の訪問もある。半年に1度血液検査やエコー診断も行われ、歯科も提携医療機関からの訪問治療を受けることができる。	

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護があり、入居者の状況や変化を伝えて相談している。薬の変更があった場合も伝えて情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、ホームでの生活状況、排泄、食事、入浴など介助状況を伝えている。入院中の状態・退院の目途などを確認・相談し、病院関係者との連携に努めている。また、治療に専念できるよう3か月以内であれば再び戻ることができる体制を有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合終末期のあり方について、本人や家族の意向を確認して方針を共有している。看取りが希望の場合は訪問診療医を交えて家族や職員で話し合いを行っている。	入居時に利用者・家族に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、確認・捺印を得ている。状況の変化の度あらためて確認している。看取りの経験があり、昨年4月にも看取りを行って、利用者・家族の希望に添うよう支援している。過去の経験や他の事業所の情報など内部で学べる機会も多く、実践に役立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて職員は職場で話し合ったり、研修などを通じ対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍なので現在は地域住民や消防に参加はお願いできないが、年2回の避難訓練を行っている。また非常食を備蓄し冬に備えてカセットガス暖房を用意している。	年に2回火災を想定した避難訓練を行っている。コロナ禍前は消防署・地域住民の参加を得て実施していた。緊急連絡網の見直しを行い、事業所に近い職員への連絡を優先した並びにしている。水・食料・乾電池・懐中電灯、カセットガスコンロやストーブを備蓄している。	前回のステップで備蓄品リストの作成を求められ、備蓄品リストを作成したが、リストを法人に提出し、事業所内で活用していなかった。非常用資機材の備蓄品リストを作成し、食料及び防災資機材をリストアップして、定期的に確保状況と点検状況の確認・記載が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに対し、尊重する気持ちを常に念頭に置き対応するよう心がけている。またプライバシーに配慮し、トイレ誘導は大きな声で言わない、申し送りの際は名前ではなく部屋番号で呼ぶ等している。	言葉使いに気をつけ、利用者一人ひとりの人格や考えを尊重し、精神的な面で傷つけないことに注意をはらっている。マナー研修を受け利用者との接し方など適切な対応を学んでいる。介護日誌などの個人情報スタックフルームの奥の戸棚で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴し入居者が今何をしたいのかを知ることにも努めている。話しかけづらくならないよう、ゆとりをもって接している。		

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の習慣を把握し、本人の希望により入浴日を変更する等、ご自身のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り、ヘアセット、化粧水の塗布などご自身で出来る方には声かけできない方には介助をしている。また、季節感のある装いができるよう支援し希望者には2か月に1度、訪問美容でヘアカットをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度は入居者に好みを聞きながら職員の考えたメニューで昼食を提供し、普段と違う食器や紙ナブキン等で目で楽しめるように工夫している。できる方には手を消毒後、食器拭きなどを手伝ってもらっている。	献立は法人の管理栄養士が作成し食材も配達される。誕生日や行事食は利用者の希望を聞き、その都度メニューを変更し、誕生日には寿司やケーキなど要望に添った出前を取り入れている。月に1回行事を行い、昼食をお好み焼きや有名店のパンにしたり、おやつ時間に駄菓子会を行うなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を記録し、一人一人の水分量を把握している。水分をなかなか摂ることが出きない方にはゼリーやジュースなど好みに合った方法で提供し、栄養状態にも考え食事量が少ない時は医師に相談しエンシュア等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	都度行っている。歯科衛生士や歯医者での指示も参考にし、必要時は仕上げ磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能の状態に応じ、トイレ誘導を行っている。食事前後や就寝前など定期的に声かけし、排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表、表情、態度などから把握し、適時にさりげなく利用者それぞれに対応した方法で排泄支援を行っている。夜間帯もトイレでの排泄を心がけ、能力に応じてパットやリハパン、紙パンツを使用しながらトイレへ誘導し、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	コーヒーにオリゴ糖を入れたり、朝食前に牛乳をに毎日提供して腸内環境を整えることに気を配っている。また、毎日ラジオ体操やパワートレーナー使用の声かけ等個々の状態に応じた運動を勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の状態に合わせて入浴の声かけ介助を行っている。一人で入りたい方にはまめな声かけ安否確認をしている。気が向かない時は順番を変える等、本人の意向を尊重している。	最低週2回、その日の体調に応じて2～3人を目安に、1人ずつお湯を入れ替え清掃し、入浴剤を使用したり、冬至には柚子も入れて楽しく入浴できるよう支援している。浴槽に入れない利用者もいるが、浴室に椅子を置いてシャワー浴を行っている。利用者の希望に添って同性介助にも配慮している。	

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は運動を取り入れ活動的に過ごしてもらい、夜間はしっかりと寝られるように支援している。21時消灯に向けて就寝介助や声かけを行っている。就寝までは希望に合わせてソファでTVを見たりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々が確認し理解に努めている。わからなくなった場合は薬ファイルや医師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせてクイックルワイパーがけや食器拭き、音楽鑑賞など幅広く趣味や家事の取り組みをしている。パズルや脳トレの提供も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響があり、日常的な外出支援は難しい状況だが、お正月時期は感染状況がおちついていたため、家に外出できた方もいる。	コロナ禍のため外出の機会は少ないが、感染状況によっては家族と墓参り、外出・外泊ができた時期もあった。ベランダで外気浴・日光浴をしたり、プランターの花への水やりをしている。以前は近くのサクラを見るため散歩がてら外出していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の希望で少額を所持している。日々紛失等ないように注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、本人の希望で携帯電話の操作が難しい方はお預かりして電話の取次ぎをおこなっている。また手紙を預かりポストに投函する等の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた布地やイラスト、折り紙の作品等を入居者さんの目に留まりやすい箇所に掲示し、季節感を感じられるようにしている。	共用空間は季節感を感じさせる装飾を心がけ職員が交替で飾り付けを担い、利用者の書初めやぬり絵、担当職員が工作した季節のものが飾られ季節感を感じることができる。明るく居心地が良い居間では、CDを用いた体操や座ったままで出来るゲームやボールを用いたレクリエーションを楽しみながら過ごしている。	



グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好みに合ったDVDやCDを流したり、話が合う入居者を隣同士の席に誘導したり、本や新聞を勧める支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の希望に沿った使い慣れた家具等を配置し、写真や小物を置いたり思い思い好みの物を飾りつけし、落ち着ける雰囲気になるよう工夫している。	作り付けの戸棚が備え付けられ、使い慣れたソファ、テレビ、テーブル、仏壇などを持ち込み、壁には家族の写真、自分で書いた書作品を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。全利用者がベッドを使用している。希望で布団の使用もできる。冷蔵庫は食品管理が難しいので入居時に相談が必要である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には手すりがあり安全な歩行に努めている。トイレの戸には「トイレ」と大きく書いた紙で分かり易く表示し、お部屋がわからない方は家族の了承を得て、居室の戸に名前を貼り自立を促している。		